

毎年疑問に思っていたことを父に聞き、目ではなく
心で大文字を見ていることが分かった僕。なんだか
父の気持ちも分かったように思い、明るい気持ちになっ
たから、風景がいつもと違って見えただと思う。

そして、改めて町を自分の町として見直し、父が愛するこの
町をしっかりと見ようと思ったからでもあると思う。

今の加西中も、もうすぐで合併してしまうけれど、
加西中は好きだから、いつまでも忘れないと思う。
大人になってもこの景色などを忘れないように
加西中で過ごす毎日を大切にしたい。

いつも見慣れていた風景は僕の視点だけど、お父さんから
見た視点は、いつもと違ってみえた風景なんだと思った。
たとえ見えてなくても、いつもと同じ場所に来ていつものよ
うに家族といっしょにみるということが、お父さんにとっての
「大文字」なんだと思う。中学生になってまた少しか時間
がたつてないけど、小学生の時に通っていた校舎がもう
なつかしく感じられるなと思った。

この子は初めは「見えないから違うところで見
たらいい」と思っていたけど、「おじいさん」の思
い出でもある自分の街を大切におもっている
父の気持ち伝わったから、自分も街を大切
にしたいと思ったから、いつもの風景が違ふよ
うに見えたと思います。私も今回の家族で道徳
をきっかけに大人になっても自分のふるさとを大切
にしようと思いました。私も大人になったら今とふるさ
との風景が変わっているかもしれません。なので、
今の風景を大切にしたいです。

前の僕は父が大文字を見たいから、他のところに見に行きたらしい、
それなら、願いも叶うじゃないか、と、思っていたけど、父にとって屋上で
大文字を見るというのは家族との大切な時間だと僕は少し
気がいいんじゃないかなと思います。「舟形」を眺めながら、手で
なぞって目をとじたのは、AA分父が言っていた「おじいちゃんが見に
ときは見えていた」というのを再現していたと思います。目を閉じることで
この「舟形」もいつかは見えなくなるほう、父は何を眺めている
のか、というのを考えていたと思います。高い建物が増えていてしまっ
てお父さんやおじいさんが大切にしていた景色はもう見れないうけど、
父は自分の町が好きでそれを自分の家族と眺める時間を
大切にしていると思います。僕の中で景色が変わったのは、故郷
を大事にしたいと思う気持ちと、父が大切にしていた眺めに対する思い
を理解してからだと思います。